

Project	地域協働専攻 地域環境科学グループ
27	遺跡の環境整備プロジェクト

メンバー	[学 生] 青木 峻暉 / 安保 創太 / 大庭 夕佳 / 賀川 愛 / 加藤 友貴 / 小嶋 李佳 / 菊池 千登 / 坂本 結
	[担当教員] 紀藤 典夫

【背景】

前期は、函館の世界遺産の大船遺跡で食害を防ぐための活動をしていた。そこで、どのような野生動物が遺跡に来ているかをカメラなど現地調査によって調べていた。しかし、6月の現地調査の際に熊の糞を見つけてしまい、それ以降も熊の目撃情報があったため現地調査が中止になってしまった。そこで、後期からは縄文遺跡についてあまり知らないであろう教育大学函館校の学生に知ってもらおうと活動した。

【目的】

活動を通して、函館の縄文遺跡の事をあまり知らないであろう教育大学函館校の学生に縄文遺跡を知ってもらう。

【概要】

大船遺跡が入れなくなってしまったため、函館にあるもう一つの世界遺産、垣ノ島遺跡で活動をした。前期に、大船遺跡を訪れた際の知識を含めて、大学生に縄文遺跡の特徴や良さを発信した。函館市縄文文化交流センターや、現地の人々にお話を聞き縄文遺跡について学習を深めた。また、3種類のポスターを作成し、私たちが身につけた知識を学生に発信できるようにした。ポスターにアンケートを付けることによってどの様に学生に影響を与えたかを調査した。

【プロセスと成果】

私たちはこの地域プロジェクトでの活動を通して、主に二つの取り組みを行った。

一つは、ポスター作成である。このポスターは、自分たちの目で見たり現地の学芸員の方々にうかがったお話をもとに作成した。学芸員の方々からは、世界遺産登録までの道のりや遺跡の特徴、縄文時代の平和な暮らしぶり、縄文時代が長く続いた秘訣など、たくさんのお話をうかがった。この取り組みに対する成果としては、3種類のポスターを完成させることができたことである。このポスターは一枚ごとに書かれている内容が異なり、順に、「世界遺産登録と魅力紹介」、「大船遺跡と垣ノ島の2つの縄文遺跡について」、「縄文時代とSDGs」という内容になっている。

そして、二つ目の大きな取り組みが、この作成したポスターを用いた宣伝活動・アンケート調査である。具体的な取り組みとしては、12月の3週間程度、大学の食堂内にポスターを掲示し、宣伝活動を行ったことである。また同時に、食堂前でアンケートの協力について呼びかけ活動も行った。得られた成果として、まずは多くの学生が、函館の世界遺産、そして縄文文化に興味を持ってくれたという点にある。これらは、Googleformのアンケートの結果から見て取れる。アンケートの回答件数は計100件ほどと、多くの学生が協力してくれた。アンケートの感想部分には、「ポスターを見て世界遺産に行ってみたいと思った」、「世界遺産があることに驚いた」等私たちのプロジェクトの目標が達成できたのではないかと思えるコメントが多数あった。



大船遺跡で撮影されたエゾシカ



作成したポスター

【総括と反省・今後の課題】

総括として、今回の地域プロジェクトでは、途中で目的を変えなければならないという状況になってしまったものの、前期の取り組みを活かした新たな方針を決めることができた。プロジェクトメンバーが協力し合って短期間の中でポスターを作成し、臨機応変に対応でき、多くの成果が挙げられた活動になったのではないかと思う。この1年を通し、私たち自身も実際に縄文文化交流センターに足を運んだり、学芸員の方々からのお話を聞いたりする中で、函館市の世界遺産、そして縄文文化について知識を得たり、興味関心を深めることができたと思っている。

今後の課題として、私たちのプロジェクトでは目的を達成することができなかった食害の被害を軽減させる活動に取り組むことや、縄文文化の宣伝活動を学生だけにとどまらず、広く地域の方々などに向けて行うことなどが挙げられる。

【地域からの評価】

上記でも述べたように前期から後期にかけて大幅なプロジェクトの変更があったため、残念ながら限られた時間の中で地域の方々と交流ができる場を設けるまでには至らなかった。しかしながら、函館市縄文文化交流センターの学芸員の方々の「縄文や遺跡についてより多くの人に知ってほしい」という意見も踏まえ、交流域は狭まるものの、函館校の学生に向けて、函館にある世界遺産や縄文文化の魅力について発信することにした。学生向けに実施したアンケート結果を通して、今まで函館に世界遺産に認定されている縄文遺跡について知らなかったものの、私たちが学生食堂内に掲示したポスターを見て、訪れてみたくなったという意見が数多くみられた。

しかしながら、「遺跡までの公共交通機関が発達しておらず、アクセスがしにくい」という意見もみられ、更なる解決策を私たち学生のみならず、函館市縄文文化センターの方々や函館市の職員と講じていく必要があると思った。

また、縄文文化とSDGsを関連づけて紹介したポスターからは、縄文人のエコな暮らしに興味を持ってくれた学生が多く、過去の知恵から今の生活を見直すという視点は興味深かったという意見もいただいた。

【年間スケジュール】

■前期

- 5月12日 第1回「顔合わせ」
- 6月 6日 第2回「全員で遺跡訪問」
- 6月30日 第3回「第1回食害実態調査」
- 7月 7日 第4回「第2回食害実態調査」
- 7月14日 第5回「第3回食害実態調査」
- 7月21日 第6回「中間発表準備」
- 7月28日 第7回「中間発表準備」
- 7月31日 中間発表会

■後期

- 10月27日 第1回「第1回垣ノ島遺跡・函館市縄文文化交流センター訪問」
- 11月 4日 第2回「活動内容決め」
- 11月11日 第3回「質問内容決め」
- 11月18日 第4回「第2回垣ノ島遺跡・函館市縄文文化交流センター訪問」
- ～12月 7日 第5回「ポスター作り」
- 12月 8日～23日「ポスター掲示&アンケート調査」
- 1月 6日～ 第6回「アンケート集計&成果発表準備」
- 1月28日 成果発表

